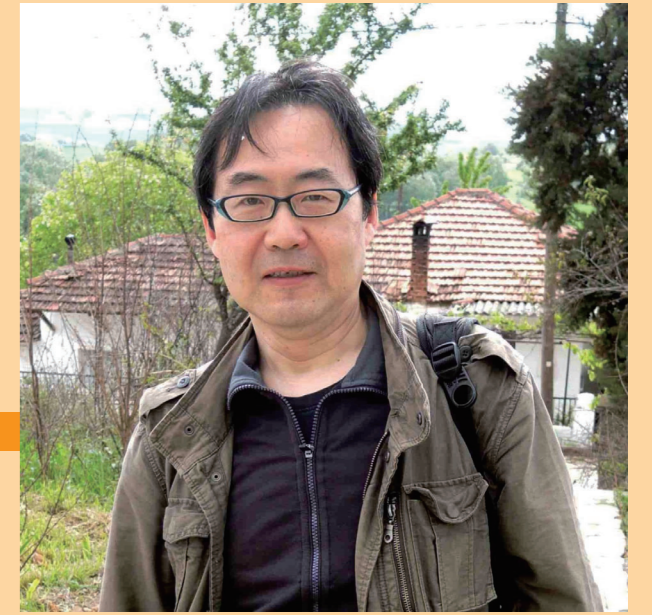


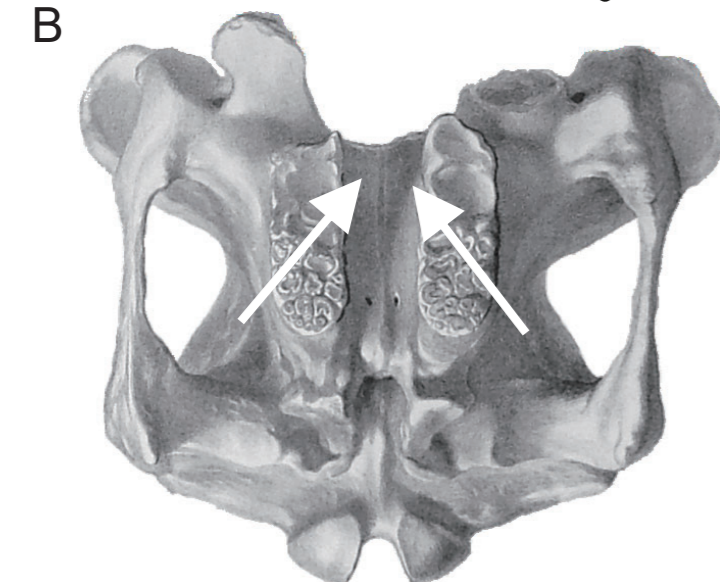
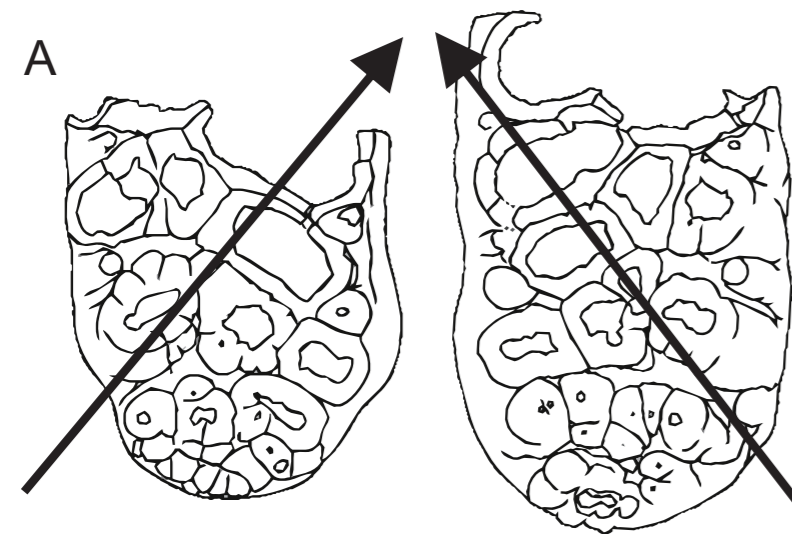
大型脊椎動物化石（長鼻類、恐竜類など）の研究



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

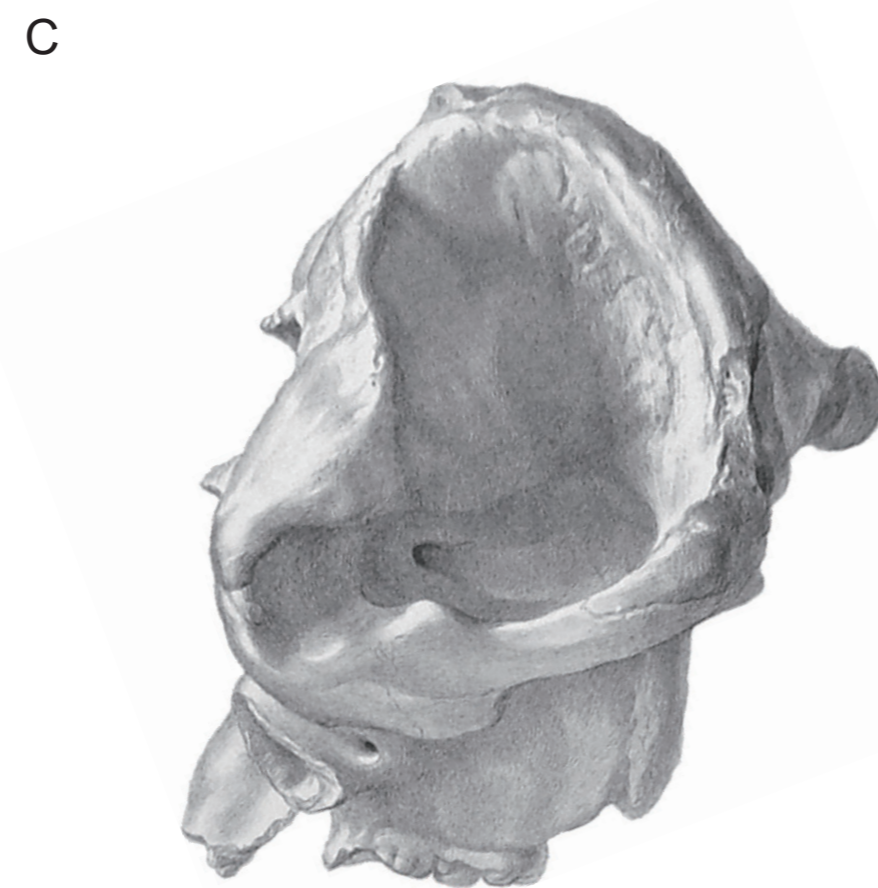
三枝 春生

ひとはくは今年で開館30周年を迎えます。三枝研究員は、準備室の一員として当館の開館に尽力し、開館後も調査研究のみならず普及教育など様々な博物館活動に精力的に取り組まれました。研究面においては、大型脊椎動物、特に長鼻類や恐竜類などを対象とした研究に携わっており、世界的に優れた研究成果を公表しています。残念ながら三枝研究員は闘病の末、先日帰らぬ人となりました。ここでは同氏の研究功績を称え、その一部をご紹介します。

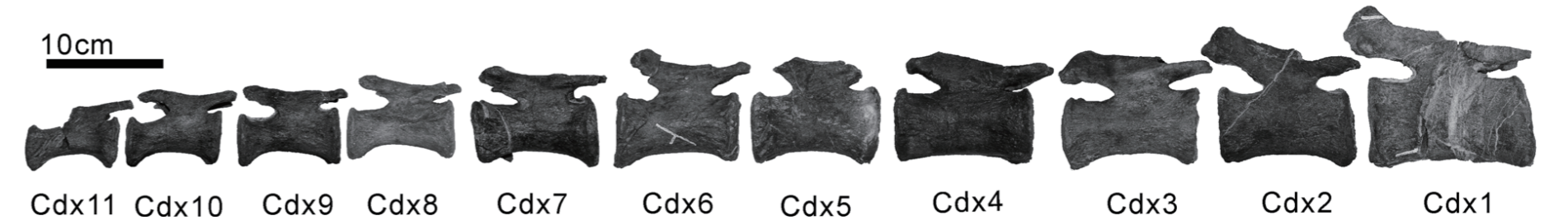
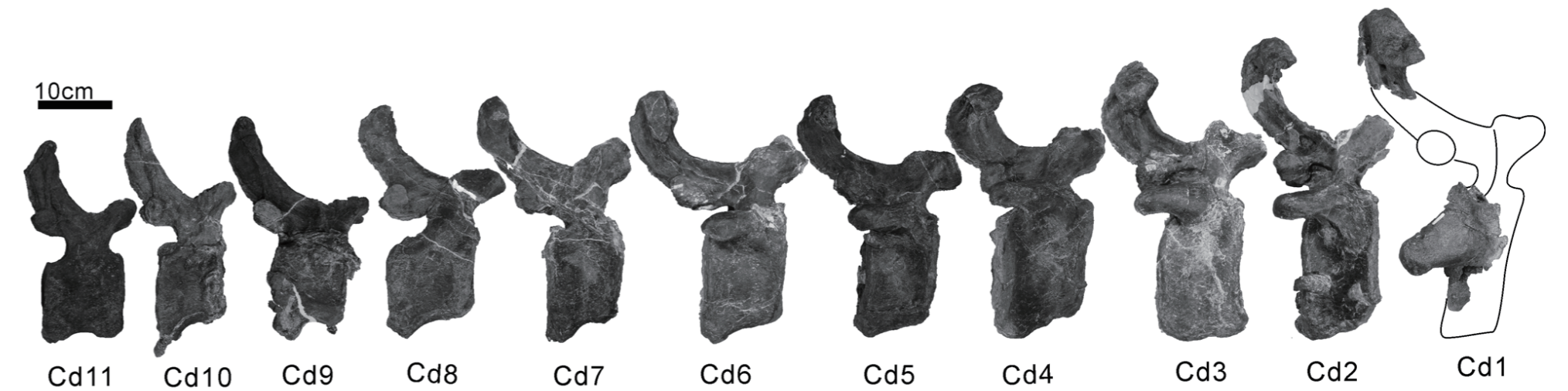


Anancus sivalensis (長鼻類: ゴンフォテリウム類) の頭骨と咀嚼時の顎の運動方向(矢印で示す)

長鼻類の進化に関する研究: 歯の形態進化や咀嚼様式の変化、及び気候変化との関連性に関する仮説を提唱



Saegusa, 2020



Saegusa and Ikeda, 2014

Tambatitanis amicitiae (恐竜類: 竜脚類) の尾椎

篠山層群大山下層産の竜脚類(恐竜類)に関する研究: 丹波市山南町の篠山川河床から発見された竜脚類化石を新属・新種、*Tambatitanis amicitiae* (タンバティタニス・アミキティアエ)として記載報告